

## 2014 年度 センター試験 地理B (本試験) ワンポイント解説

第1問	問1	海域イはグランドバンクなど漁業が盛んな浅海であることから判断できる。
	問2	大きな地震は海溝付近で発生するため、海溝の位置をイメージすれば、簡単に解答できる。「カ」は北半球中心に発生しているため、日本を含むBと判断する。「キ」は南半球のソロモン諸島、ニュージーランド付近で発生しているため、Cと判断する。「ク」は赤道周辺で発生しているため、スマトラ島などをイメージすれば良い。
	問3	「サ」は塩湖、湖面が海面よりも低いという記述からカスピ海と判断する。「シ」は断層作用により形成されたこと、水深の深さなどから世界最深の湖であるバイカル湖と判断する。「ス」は氷河の侵食作用により形成されたこと、世界最大の淡水湖という記述からスペリオル湖と判断する。
	問4	Pは日本が含まれていることから、温帯に分布する褐色森林土であるとわかる。
	問5	気温の年較差が大きい大陸性の気候から④と③に絞り込み、年平均気温が25度を超える③をTと判断し、④が正解と判断する。
	問6	Yは南半球であるため、1月は夏である。aはサバナ気候(Aw)、dが地中海性気候(Gs)であることから①が正解と判断する。
第2問	問1	「ア」はアフリカ大陸から連れて来られた黒人奴隷によるプランテーション農業であるとわかる。「イ」は冷凍船の発明によって赤道を越えた食肉の輸送が可能になったことから判断できる。「ウ」はアスワンハイダム建設による農業の発展から考える。
	問2	生産量世界1位の中国、2位のインドをそれぞれ④、③と判断し、輸出量世界1位のタイが①となるため、消去法で解答できる。
	問3	「カ」は安定陸塊に分布する鉄鉱石である。生産上位のブラジルが唯一出てくる地図であることから判断できる。「キ」は南アフリカ共和国で割合が大きいことから金であるとわかる。「ク」メキシコ・ペルーで割合が大きいことから銀であるとわかる。
	問4	韓国、フィリピンともに軽工業品や資源の輸出から重工業製品の輸出へと変化したことから「シ」を自動車、熱帯のフィリピンのみに見られる「ス」を木材、残った「サ」を衣類と判断する。
	問5	オーストラリアは先進国でありながら石炭産出国であるために原子力発電を行っていない。
	問6	イギリスは2014年1月現在もユーロの導入はしておらず、自国通貨ポンドを採用している。
第3問	問1	都市人口率の低い③④を発展途上国の多いアジア、アフリカと考え、人口500万人以上の都市数が多い③をアジア、少ない④をアフリカであると判断する。
	問2	大ロンドン計画はハウードの田園都市構想を具体化したものであるため、「イ→ウ」の順番となる。ドックランズは近年のウォーターフロント再開発のため、「イ→ウ→ア」の順番となる。
	問3	Aは中心業務地区(CBD)であるため、昼夜間人口比率がもっとも高い「カ」であるとわかる。Bは住宅地であるため、昼夜間人口比率が100を下回る「ク」であると判断する。
	問4	まず、広範囲に均等に散らばる「ス」は小学校であるとわかる。駅付近の中心市街地に集中する「シ」を銀行、郊外の幹線道路沿いにも見られる「サ」を大型小売店と判断する。
	問5	P、Qについては冬季の暖房費の違いから判断できる。R、Sについては中部地方に豪雪地帯である北陸地方が含まれることを考えれば同じく暖房費の視点から解答できる。
	問6	アメリカ合衆国は近世以降に成立した国であるために、城壁に囲まれた都市は見られない。

第4問	問1	首都が4つ見られる②はBであるとわかる。砂漠が広がり人口密度の低いDは①とわかる。Cはティグリス川、ユーフラテス川の流域に集落が存在することから④であると判断する。
	問2	淡水化水は生産量の少なさから「ウ」とわかる。カナートが発達するイランで多く見られる「イ」を地下水と判断する。地中海に面し、地表水の多いトルコ、河川が少なく地表水が少ないサウジアラビアなどの判断材料も使える。
	問3	いずれも産油量の多い国であるため、産油量に対する人口規模から判断する。人口が少なく1人あたりGDPが最も高い「ク」をアラブ首長国連邦、人口が突出しているイランを「カ」と判断する。
	問4	Kはアラブ首長国連邦のドバイである。人件費が高いため、大量の人手を要する製造業は発展しない。
	問5	「タ」は海峡の南に位置するソマリアが無政府状態となっているため、海賊被害が多発しているマンダブ海峡である。「チ」が世界最大の油田地帯であるペルシャ湾の入り口であるホルムズ海峡である。「ツ」の大帝国はオスマントルコのことであり、Pのボスポラス海峡である。
	問6	イランは問題文に出てくる国の中で唯一シーア派が多数を占める国であるため、②が正解であるとわかる。
第5問	問1	②は景観の保全には森林を保護する必要があるため誤り。⑤のフランスは原発推進国であるため誤り。
	問2	写真はセンターピボットによる農場である。もともと乾燥した土地であるため、地下水の汲み上げによる塩害の危険性が伴う。
	問3	アフリカの銅産出国であるザンビアでは貧富の差が改善されたとはいえない。
	問4	リサイクルは先進国で推進されているため、割合の低い「ウ」はメキシコであるとわかる。残る「ア」「イ」については1人当たり廃棄物発生量の大きな「ア」をアメリカ合衆国と判断する。
	問5	いずれの割合も低い「ク」を社会保障が未発達なインドであると判断する。公的支出の割合が高い「キ」を福祉国家であるデンマークと判断する。
第6問	問1	「イ」については北西から南東方向に谷が続いているため、誤り。
	問2	常滑市の高齢者の割合は22%~26%となっており、低くはない。
	問3	ため池は消滅していないため、③が誤り。
	問4	空港から輸出されるものは軽量高付加価値の製品となるため、Zであるとわかる。名古屋港からの輸出は自動車、輸入は原料中心となる。
	問5	地形図の判読から補強材の判断はできない。
	問6	窯業は原料立地する。また表1から他と比べて事業所数が多いにもかかわらず出荷額が低いため、1事業所あたりの規模は小さいと判断できる。